

1 学校教育目標

日本国憲法や教育基本法の精神、児童の権利に関する条約などの趣旨を尊重して、健康で個性豊かな社会人を育てるために、生涯にわたる学習の基盤を培う教育を進める。

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子どもも教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校	
○児童・生徒像	○よく考える子（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につけた子） ○心豊かな子（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○たくましい子（チャレンジ精神をもち自分を育て、自分のことが好きだと言える子）	
○教師像	○子どもと共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○日々の授業の充実をめざして挑戦する教師 ○学校運営やPTA、地域行事に進んで取り組む教師	○子どものよさを認め、励まし、高める教師 ○自己の職責を果たしながら協働のなかで互いに高め合う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<現状>

令和2年度創立70周年を迎える。平成19年度以来初の12学級となる。児童数286名。児童の学習態度や生活態度は落ち着いている。集団行動における規律は概ね定着し、主体的な実践力、努力する態度、友達と励ましあって自分も挑戦を続けようとする態度などに成長が感じられる。一方、極端な学力低位層や生活態度不良層が散在し、対応は難しくなっている。保護者や地域は、学校に協力的で三者が一体となった活動が充実している。コミュニティスクール通算8年目。コロナ感染予防対策を十分に実施し安全安心な学校を中軸に目標に迫りたい。

<前年度の成果と課題>

- ①区学力調査の結果は、国語90.0% 算数91.0%と目標値通過率の数値目標は達成した。しかし、正答率は国語77.1%算数80.3%と低下した。
- ②児童を多面的に捉え、個の実態把握、児童理解をこれまで通り重要視し、個別に補充学習で対応する。
- ③授業時数も増え教育課程が満杯の状態の中、学校での読書が十分に実施できない。家庭学習の充実に指導の工夫が必要である。
- ④異校種、特別支援教室との連携を密に行う。
- ⑤全国体力調査8種目の結果について体力合計点においては、全学年、都平均値、全国平均値以上を維持した。
- ⑥人工芝、固定遊具、ミズノ貸与教具等を活用し日頃の運動への更なる意欲向上と継続を図る。
- ⑦虫歯の治療率は、一昨年度の64%から、昨年度85%今年度12月現在で85%と徐々に向上している。100%を目指していく。
- ⑧昨年度同様教員の入れ替わりの時期が続く。若手・転入・産育休代替教員の割合が高い。本校の教育方針と教育水準の維持向上に引き続き努めていく。
- ⑨下肢に障害のある児童の在籍や災害対策避難所になるうえで、校舎出入りのスロープが必要である。（施設課で実現に向けて対応中）
- ⑩日々各ボランティアに支えられている。今後も保護者・地域との連携を大切にして各取組を維持継続させていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）			○	○	○
4	保護者・地域との連携協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
年度中の調査目標値通過率を 国語・算数とも学校85%以上		①令和2年度校内調査(7月) ②年度末到達度確認テスト ③令和3年度区調査 ①②③通過率85%以上							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	ICTの活用	全学年 全教科領域	全ての 授業	教員の校内研修の徹底 児童のICT機器活用力 プログラミング学習推進 自分の考えや根拠を説明 する力を伸ばす	平常授業 全学級の研究 授業	全教員の習得 Zoom Eライブラリ Chromebook 他			
2 継続	学力向上 委員会 校内研究	全教員	春休業 中・調査 直後・	個々の学力の引き継ぎ、校 内区調査自校採点、SP表 分析、意思統一、情報交換、 指導力の向上	各学年からの 報告 研修会 小中連携 研究授業	7月中 採点 7月中 分析 8月 全体会 年間毎月一回			
3 継続	読書活動	全児童	毎週水 始業前 家庭学 習	読書習慣定着、語彙獲得記 録用個別カード 図書館支援員の活用と図 書ボランティアの協力	記録用個別カ ード 調べ学習コン クール参加	2000ページ達 成(1年生は100 冊)ごとに全校 朝会で表彰			

4 継続	放課後補充学習	対象児童 国語算数 正答率 70%未満	週2回 火・金 放課後 40分	できなかった内容を中心に個別少人数指導、書く力に課題の児童の自力解決の時間確保 SIEN の活用	校内学力調査 家庭との連携	正答率80%以上 低学年は100%を目指す			
5 継続	夏休み補充教室	学年数名 国語算数 正答率 70%未満	夏休み 10日間 各日50分	担任+専科サポート水泳指導と重ならない時間に設定。学年担任の少人数指導。理解不十分な単元補充	夏休み明け、確認テストの実施	夏休み明けの確認テストで正答率アップ	今年度は中止		
6 継続	校内学力調査	全学年	9月から 1月1回	学力向上委員会、担任学習内容の復習・確認ベーシックドリル、自作テスト、過去問、完全習得	東京ベーシック単元テスト 校内学力調査を実施	左記のテストで正答率80%以上			
7 継	区学力向上施策	該当学年	通年	MIM、そだち教室あだちスタンダード定着新聞活用	実施状況評価 教師自己評価	正答率肯定的 評価80%以上			
8 継	百人一首検定	全学年	通年年 2回重 点週間	暗記力・集中力・伝統文化百人一首カード縦割り班百人一首大会	年二回百チャレ週間 全	一年間で一段昇段、100首暗誦で表彰			
9 継続	家庭学習 15分×学 年数定着	全学年	通年	家庭学習カード 自主学習ノートの指導 オンライン学習力の向上 Eライブラリの活用	保護者会で協力依頼、日々の評価年度末児童自己評価	自己評価向上 定着率 下学年80% 上学年70%			

重点的な取組事項－2		体力向上								
A 今年度の成果目標		達成基準			実施結果		コメント・課題		達成度	
全国体力調査8種目の結果について昨年度結果の維持向上		都平均を超え、国平均を維持 (前期 投力、後期 走力)								
B 目標実現に向けた取組み										
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度
基礎体力の向上 ビヨンド2020		・全国体力調査8種目の国平均以上を保持増進する。今年度は全国体力調査中止のため、校内投力調査のみ続ける。		<ul style="list-style-type: none"> (・朝の体力づくり週2回継続) ・縄跳びカード ・投力強化、持久力強化実践 ・スポーツ指導ボランティア ・オリパラ教育の推進 						

生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上	・休業日明け「元気カード」 ・保健便りの活用、学級指導 ・ コロナ感染症予防の徹底 ・虫歯治癒率の向上			
食への自己管理能力の向上 あだち食のスタンダードの定着	・残菜率 1%以内 ・高学年は自分でごはん と味噌汁を作る ・農園活動の実施	・給食便りの活用、学級指導 ・糖尿病予防の知識を身に付け、簡単な調理をさせる。 ・なるなる農園での体験活動			

重点的な取組事項－3		心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
他人を思いやる気持ちや共に助け合っ て生きようとする態度の育成	・学校評価、児童自己評価ともに「よ い」90%以上				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律の徹底 よい子のきまり 授業規律	・教職員自己評価 児童自己評価ともに 「よい」85%以上・	・看護日誌、生活指導朝会 ・教職員自己評価 ・児童授業規律自己評価			
いじめの根絶 いじめをしない、許 さない心	・学年末の段階でいじめ の解消率 100% ・学校評価、児童自己評 価「よい」90%以上	・年3回のアンケート調査 ・迅速な校内委員会による対 応・継続指導の実施。 ・相談ポストの活用			
オリパラリンピック 教育を通して、異文 化理解、障がい者理 解を進める	・学校評価、児童自己評 価ともに「よい」90%以 上	・レガシーを残す指導の工夫 ・外部講師による授業を通し 障がい者理解を進め助け合っ て生きる態度を身に付ける			
70周年記念事業を通 して、愛校心や地域 愛を育む	・地域と連携しての一連 事業の計画的な実行	・特別活動のねらいを踏まえ た児童式・体育参観・展覧会			
特別支援教室との連 携	・特別支援を要する児童 の安定した学校生活	・教育相談の一層の充実 ・学期ごとに研修会 ・週一回の情報交換			

重点的な取組事項－４		保護者・地域との連携協力による教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化（CS 重点目標）		・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
創立70周年事業	・円滑な実施に向けて地域・顧問関係者との連携	・実行委員会の発足 ・実行委員会との連携			
あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・学校評価、児童自己評価「よい」85%以上	・児童会あいさつ運動の継続 ・情報の発信の強化			
交通安全防災支援 ・交通安全ボランティア ・避難所運営	・毎日の登下校の見守り ・交通事故ゼロ ・災害時円滑な避難所運営	・交通安全に関する安全教育 ・ボランティアと保護者の見守り ・地域防災との連携マニュアル			
園芸支援 ・なるなる農園ボランティア	・生活科、総合的な学習の時間の中で計画実施 ・ボランティアの確保	・なるなる農園の維持管理 ・花壇、ビオトープ等の保全 ・スーパーソルガムの栽培			
図書支援 ・図書ボランティア	・各学年読書目標の達成 ・図書支援員の活用 ・ボランティアとの連携	・読書カードの継続 ・感想文やお礼文で書く活動 ・調べる子を育てる環境			
学習支援 ・学習支援ボランティア ・スポーツボランティア	・外部講師の活用 ・ボランティアとの連携	・基礎学力向上の支援、学習環境の整備、ESD 教育の推進 ・学生ボランティアの活用			
放課後支援 ・放課後子ども教室	・現状の維持 ・スタッフの確保、連携	・避難訓練等連携協力 (・夏休みの実施、宿題教室) ・下校指導の徹底、事故防止			